

吉田 康弘 市政報告 Vol. 3

新年号

発行/吉田康弘 小矢部市 本町3-50 TEL・FAX 67-1227

発行年月/平成24年1月

Eメール: shojin@bloom.ocn.ne.jp

ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年は豪雪災害に始まり、東日本大震災、原発事故そして台風による豪雨災害と、災害の多い忘れることのできない一年でありました。被災された方々に対し、改めてお見舞申し上げます。

そして又、昨年10月に開催した新人会派「新風会」の市政報告会においては、多くの方々に来場いただいたことに厚くお礼申し上げます。「新風会」に対する期待の大きいことをひしひしと感じながら新年を迎えております。

さらに、地方自治をめぐる政治の世界においても、昨年は大きな変化が生まれた年となりました。何かと申しますと、5月と8月に「地域主権改革第1次、第2次一括法案」の成立したことであります。永年、国による中央集権的な制度の見直しが必要とされていながら、実現してこなかった地方分権改革が政権交代により、「地域主権改革」と呼称を替えて実現したことであります。

本年は第3次一括法案の成立が見込まれており、基礎自治体の取り組みに大きな変化をもたらすことになります。地域主権改革とは「住民に身近な行政は地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担うようにするとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組みことができるようにするための改革」であり、新たな地域間競争の幕開けともなるものです。

小矢部市が他市に先駆けて取り組まねばならないのは、地域経済の活性化であり、企業誘致、雇用の創出、定住促進と子育て支援、そして税収の確保につながる、従来の制度を抜本的に見直すような力強い施策の展開であります。本年こそが正に正念場であるとの思いを強く致しております。

小矢部市は本年、市政50周年を迎えるのですが、市政50周年のテーマ「小矢部ルネサンス」は、小矢部市を再生する施策のキャッチフレーズであるべきと、昨年12月定例会の代表質問に立たせていただきました。

これからも小矢部市の活性化に向けた、真剣な質疑を展開してまいりたいと考えております。まだまだ未熟ではありますが、さらに研鑽を積み、先輩議員諸氏に追いつこうとしております。今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



小矢部市議会12月定例会の主な審議内容

- ①23年度一般会計補正予算（増額11億3千54万円）を可決（主な事業 石動小学校校舎建設費用）
- ②23年度下水道事業特別会計補正予算（減額2百21万円）を可決
- ③議員その他非常勤職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正について可決
- ④小矢部市税条例の一部改正を可決（公益法人に対する寄付金を市民税の寄付金税額控除の対象とする）
- ⑤小矢部市スポーツ振興審議会条例の一部改正について可決
- ⑥小矢部市地域活性化・公共投資臨時基金条例の廃止について可決
- ⑦議員提出議案 障害者総合福祉法のサービスと介護保険法のサービスを当事者の意思で選択・併用を求める意見書の提出を可決
- ⑧議員提出議案 TTP交渉参加表明に講義する意見書の提出を可決
- ⑨議員提出議案 並行在来線の持続可能な安定経営実現に関する決議を可決
- ⑩議員提出議案 緊急事態基本法の早期制定を求める意見書の提出を否決



「市民に開かれた議会を目指して」

新人会派新風会がこの1年2ヶ月間の議員活動を説明する初めての「市政報告会」を、クロスランドおやべせレナホールにおいて開催し、200名を超える市民の皆さんに会場いただきました。



次 第

- 1 開会あいさつ 新風会会長 吉田康弘
- 2 来賓あいさつ 小矢部市長 桜井森夫氏
- 3 来賓あいさつ 小矢部市議会議長 中村重樹氏
- 4 新風会の紹介
- 5 活動報告
 - ・義浦英昭議員 農業問題全般（6次産業化等）
 - ・藤本雅明議員 子育て支援、食育、放射線等
 - ・福島正力議員 並行在来線関係と新駅設置等
 - ・吉田康弘 自主財源強化と石動駅周辺整備 他

新風会 市政



——市民に開かれた議会を目指して——
新風会 市政報告会

新風会活動

行政視察 4回
政策課題研修会 8回
市町村議会議員特別セミナー
その他研修会 5回
要望書提出 年1回



自主財源の強化に向けて

- * 企業誘致の促進
- * 地元産業の振興
- * 人口増対策（定住促進・子育て支援）

※小矢部市の優れた市民サービスを持続・充実

石動駅南土地区画整理事業設計図



小矢部市都市計画用途地域計画図



これまで行なってきた小矢部市議会

平成22年9月定例会 代表質問

◎単独市政を選択した小矢部市の課題と対策について

- ① 自主財源を増やしていくには、企業誘致と地元商工業の振興、そして雇用の確保でないと考えるが市長の見解を問う。
- ② 地方交付税に代表される依存財源を確保していくには、定住人口を増やすことが必要と考えるが市長の見解を問う。

◎議会基本条例と市当局の対応について

- ① これからの自治体経営の観点から、市当局と議会が協働し責任を共有する考え方に対する見解を問う。
- ② 小矢部市議会基本条例に対する市当局の見解と対応を問う。

平成22年12月定例会 一般質問

- ① 旧岩尾滝小学校及び岩尾滝保育所の跡地利用について
- ② 石動小学校全面改築に伴う周辺道路の整備について、市当局の方針を問う。
- ③ 並行在来線の運行要望についてどのような姿勢で協議に臨むのかを問う。
- ④ 並行在来線石動駅の付加価値をいかにして高めるのかを問う。
- ⑤ 県道浅地小矢部線の延伸拡幅改良についての見解を問う。
- ⑥ 県道社内上野本線、浅地小矢部線の拡幅改良についての見解を問う



石動小学校 完成予想図

平成23年3月定例会 予算特別委員会

- ① 企業誘致の取り組みについて、従来の取り組みと新たな取り組みを問う。
- ② 企業立地の促進に対し、現存する課題に対する対策を問う。
- ③ 現存する課題に対する対策を問う。

平成23年6月定例会 一般質問

- ① 市内の空き店舗と意欲ある事業者のマッチング、補助金交付制度の利用状況を問う。
- ② 新たな事業を興す意欲ある起業家の支援策を問う。
- ③ 市内消費を喚起するため、地域振興策を問う。
- ④ 平成23年度から始まった観光推進策の効果を問う。

平成23年9月定例会 一般質問

- ① 小矢部市の少子化、高齢化の現状と対策を問う。
- ② 定住促進施策の成果と事業効果について問う。
- ③ 少子高齢化に伴う自主財源の税収減について問う。
- ④ 道路、橋などの公共財産に対する管理状況について問う。



報告会

日時 平成23年10月31日(月)
場所 クロスランドおやべ セレナホール



6 基調講演 高岡法科大学教授 豊本 治 先生

演題は、「議会基本条例の目的と仕組み」としています。

講演内容は、地方議会の機能と現状、地方議会における市民の評価、議会の取組、議会基本条例の特長・必須アイテム・制定状況などについての説明の後、小矢部市議会基本条例のスタンス（前文）解説、議会の活動原則、市民参加・市民との連携、議決議案の追加と政策議案の提出の説明がありました。

最後に、基本条例を市民が享受するためには、議会への関心を高める（議会の傍聴など自由討議の醍醐味を味わう）、議会報告会への積極的な参加（議会の事を知り、議会に政策提言を）。そして、市長・市議会・市民による緊張感のある市政の実現を目指してくださいと締め括られました。



7 パネルディスカッション

パネラー 新風会（義浦議員、藤本議員、福島議員、吉田康弘）
コーディネーター 高岡法科大学教授 豊本 治 先生

パネルディスカッションは、「議会基本条例の活用の仕方」についてです。

議会基本条例の思いや、使い方について話し合いました。議会における最高規範であることを十分理解をして、この条例の目的が達成されているかしっかり検証をしてくださいとのことでした。



まとめ

議会基本条例に基づき議会がより市民に身近なものとなるよう積極的な情報の公開、政策活動への多様な市民参加の推進、議員間の自由な討議の展開、市長等の行政機関との持続的な緊張の保持、議員の自己研鑽と資質の向上、公正性と透明性の確保、議会活動を支える体制の整備等について、独自の議会運営のルールを遵守し、実践することにより、市民に信頼され、存在感のある、豊かな議会を築きたいと思います。

8 閉会あいさつ 新風会幹事長 福島 正 力 議員



議会定例会での質問を紹介します

北エリアの整備について問う。

従来の成果を確認。
課題は何かを問う。

者とのマッチングが必要となる、商店街等振興事業
う。又、市内の空き店舗数をどのように把握してい

予定者の見込みについて問う。
振興券の発行と商工博の開催についての見解を問う。
新規事業の取り組み状況を問う。

状と将来予測をどのように想
について問う。
収や、地方交付税の影響につ
る老朽化対策はどのような状



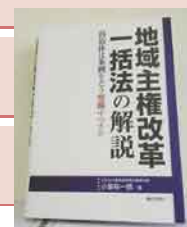
平成23年

■ 12月議会 代表質問

ルネッサンスという言葉は直訳すると「再生」「復興」という意味になるが、小矢部市を元気にして欲しいと願う市民の多いことも事実である。是非、桜井市長の「小矢部ルネッサンス構想」を問う。

小矢部市の土地利用計画と、都市計画を抜本的に見直してはどうか。市長の所見を問う。

石動駅の西側にある踏切の改良は不可欠と考えるが、市長の所見を問う。



■ 再質問

小矢部ルネッサンスは50周年イベントのためだけのキャッチフレーズに終わらせないで、小矢部市再生に取り組むべきである。地方自治法の改正を踏まえた市長の決断が必要である。

第6次小矢部市総合計画の第3節に謳い上げた「人でにぎわう産業と経済の活力あるまち」の実現に向け、今後どのように展開しようとするのか、市長の所見を問う。

これからも市政全般・地域の様々な課題について、積極的に質問していきたいとします。

